



7月7日[Tue]

株式会社ミナスターと進出協定を締結しました



▲進出協定書を手にする香月市長（左）、須藤竜平代表取締役社長（右）

テレビなどの字幕制作を手掛ける株式会社ミナスター（本社：東京都渋谷区）と進出協定を締結しました。株式会社ミナスターは、テレビやインターネット動画・株主総会時などの字幕制作、多言語対応などの事業を展開されており、今回新たな事業拠点となる「株式会社ミナスター FRONTIER BASE SAGA」を多久市北多久町内のビルに進出されました。市役所で行われた進出協定締結式で、須藤竜平代表取締役社長は「誰もが情報を受け取れる社会をめざして、人だからこそできる字幕制作を多久から拡げていきたい」と挨拶されました。



7月10日[Fri]

デジタルシティ株式会社と進出協定を締結しました



▲（左から）古川副市長、香月市長、大島代表取締役、川崎執行役員、北村佐賀県企業立地推進監

DX関連の受託開発やコンサルティング事業を行うデジタルシティ株式会社（本社：東京都港区）と進出協定を締結しました。デジタルシティ株式会社は、DXコンサルティングサービスや人材派遣等の事業を展開されており、今回新たな事業拠点となる「デジタルシティ株式会社 多久支店」を多久市北多久町内に進出されました。市役所で行われた進出協定締結式で、大島予章代表取締役は「自分にとってルーツがあるこの佐賀に恩返しをしたいと思いこの地を選びました。地域の人と一緒にこのまちで物語をつくっていきたくと思っています」と挨拶されました。

新たな拠点となる多久支店では7月から操業が開始され、DX支援やAI活用支援などの事業が行われる予定です。



7月13日[Mon]

第36回 諸田賢順を偲ぶ会



▲専称寺には賢順の子孫をはじめ久留米からも関係者が参列されました

筑紫流箏曲の創始者で、多久ゆかりの諸田賢順を偲ぶ「第36回諸田賢順を偲ぶ会」（主催：多久市文化連盟）が、専称寺で開催されました。

404回忌の供花が飾られた本堂で、川副春海住職が読経。続いて箏と尺八の合奏や詩吟が披露され、参列者は涼やかな音色に耳を傾け、賢順を偲びました。

多久市文化連盟の野田勝人会長は「諸田先生の功績を継ぎ、子どもたちに伝えていく使命があります。みなさんと共に考えていきたいです」と挨拶。参加者は「以前から気になっていて、今回初めて参加しました。あっという間に時間が過ぎ、もっと聞きたいと思いました」と感動を口にしました。